# 「着実なリバウンドに入ったシンガポールの MICE 産業」

碇 知子

# <2019年を上回ったF1 観客数>

コロナ前は経済の大きな柱の1つだったMICE産業。 昨年4月に国境を再開してから、徐々に息を吹き返しています。10月にはフォーミュラ1シンガポールグランプリも2年ぶりに開催され、3日間の観客数は30万2,000人と、2019年の26万8,000人を上回る盛況となりました。

### <2025年にはコロナ前の水準へ>

2022 年の MICE イベント数はシンガポール観光局 (STB) のイベントリストに掲載されているだけで 76 件。そのうちオンラインだけだったものは 5 月に開催された医学学術会議のみで、それ以外は対面開催あるいは、対面とオンライン両方のハイブリッド開催でした。このリストに掲載されないイベントも多数あり、年間のイベント件数は公表されていませんが、2022 年 6 月の報道によると、1~3 月だけで 150 のイベントが開催され、3 万 7,000 人が参加しました。2021 年は年間で 200 イベント、参加者は 4 万 9,000 人だったので、力強くリバウンドしていることがわかります。

イベントの参加者数をみると、2~4 月頃の開催のイベントはコロナ前のイベントに比べると参加者数が半分程度ですが、9 月以降になると、コロナ前の 9 割程度まで達しているものもあります。さらに 11 月に開催された Singapore Fintech Festival は 2019 年を上回る参加者数を達成しています。

シンガポール観光局では、MICE 産業は 2025 年にはコロナ前の水準に戻ると予想しています。

#### <MICE 産業に様々な支援>

STBではコロナで打撃を受けた MICE 産業を支援するための様々なプログラムを用意しています。 Business Event in Singapore (BEiS) プログラムでは、イベントの内容、参加者数や参加者のプロフィール、イベントの規模、期間等を審査したうえで、イベントの一部の費用が補助されます。他に、条件を満たしたイベントについては、アトラクション、チームビルディング、ダイニング等を無料で提供する INSPIRE Global 2.0 (In Singapore Incentives & Rewards 2.0) プログラムや、チャンギ空港グループ、セントーサ開発公社、携帯電話キャリアのスターハブ等のパートナー企業から割引や特別待遇を得られる Singapore MICE Advantage プログラムもあります。

# <ネットゼロ(※)を目指す MICE 産業>

また、今後、欠かせないのは、サステナブルな MICE 産業への取り組みです。

シンガポールの MICE 産業はコロナ前からサステナブルを目指してきました。STB は 2013 年に MICE 産業のサステナビリティ・ガイドラインを発表。2017 年からはこのガイドラインを基にした認証制度も実施し、サステナブルな MICE イベント運営を促してきました。

さらにサステナブルな MICE 産業を加速するため、STB と SACEOS (MICE の業界団体) は、2030 年までにアジア太平洋地域の先進的なサステナブル MICE デスティネーションとなり、2050 年までに MICE 産業でネットゼロを達成するためのロードマップを 2022 年 12 月に発表しました。具体的な目標として、①2023 年までに観光産業界が容易に適用できる一連のサステナビリティ基準を策定し、2024 年までに国際的に認知されること、②2025 年までに MICE 会場と SACEOS のメンバー企業の80%が国際的またはシンガポール国内(またはその両方)で認められた持続可能性認証を取得すること、③MICE 業界による 2050 年までのネットゼロの達成を掲げています。

もちろん、サステナブルな MICE 産業を目指してしの ぎを削る国は多数あり、競争は熾烈です。シンガポール がコロナ前のような活気のある MICE デスティネーションとしての地位を維持できるか、注視していきたい と思います。



【大勢の来場者で賑わう Food and Hotel Asia】

(※)様々な方法で物理的に温室効果ガスの排出量を削減し、排出量から吸収量と除去量を差し引いた合計を差し引きゼロ、正味ゼロニネットゼロにしようとする考え方。2050年までにネットゼロを目標にする国は日本を含めて多数。